喉頭アレルギーの鑑別診断：慢性咳嗽・咽喉頭異常感を訴え耳鼻咽喉科外来を受診した症例より

阪本　浩一，古閑　紀雄，林　　拓二
兵庫県立加古川医療センター　耳鼻咽喉科

【はじめに】喉頭アレルギーは，喉頭の慢性アレルギー性炎症により慢性咳嗽，咽喉頭異常感を呈する疾患として定義されている。慢性咳嗽，咽喉頭異常感を訴え外来を受診した症例を対象に，喉頭アレルギーと後鼻漏症候群，GERD，下気道疾患などを広く念頭においた鑑別診断を行い，喉頭アレルギー診断の臨床とその問題点を検討した。
【対象と方法】対象は，当院耳鼻科受診した遷延性および慢性咳嗽，または持続する咽喉頭異常感を訴えた106例である。咳嗽を訴えるものは76例，咽喉頭異常感を訴えるものは61例。両方を訴えるものは，32例であった。これらの症例に対して，副鼻腔CT，CAP-RAST，鼻汁および咽頭の好酸球検査を行った。また，自覚症状，Fスケール問診票，PPIテストによりGERDの有無を評価した。さらに，自覚症状，内視鏡所見より後鼻漏の有無を検討した。それらの総合的な結果で診断を行った。
【結果とまとめ】副鼻腔炎は38例（35.8%）に認められた。後鼻漏は73例（69%）で認められた。GERDは31例（29%）に認められた。喉頭アレルギーの診断にあたっては，多様な病態の併存に留意する必要がある。特に後鼻漏の存在をどう考えるかが重要で，特に漿液性の鼻汁が内視鏡で認められる場合の，喉頭アレルギーとアレルギー性鼻炎による後鼻漏の鑑別は困難な場合も存在する。その際に，ステロイドの点鼻の効果が診断の助けになる例も認められた。代表的な症例を解説し，喉頭アレルギー診断の臨床の一端を紹介する。